

令和 7 年度 県立潮来高等学校自己評価表

目指す学校像	人間性豊かな「自立した生徒・自走できる生徒」の育成 ～どのような時代であっても一生涯、自立して主体的に判断・行動できる人間を育成する～			
三つの方針	具体的目標			
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成をめざす資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	地域社会に貢献でき、人間性豊かで自立して主体的に判断・行動できる人財		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	学科や地域の特色を生かした学習活動により基礎学力の確立と、社会との接続を意識したキャリア教育による生徒の進路希望実現		
	「入学者の受け入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、毎日の学校生活に「一生懸命・楽しく根気強く」取り組むことができる生徒		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
基礎学力の養成と学習習慣の定着をめざし、丁寧な学習指導に努めており、少しずつ成果が出てきている。学習意欲を向上させるために、授業・課題・考査の取り組み方などについてさらに指導の工夫・改善に努め、自ら学ぶ意欲を喚起する必要がある。 進路決定率はほぼ 100%だが、第一志望が叶わない生徒もいる。面談や進路行事、LHR、総合探究の時間を活用するなど学校生活のあらゆる場面で生徒の自己肯定感を高め、目標をもち、適切な進路選択ができるよう、進路意識の高揚を図り、家庭との連携も深めていく。 生徒指導・生徒支援に際し、生徒の心情を理解しながら丁寧に指導・支援を行なった結果、概ね落ち着いた状況にある。一部軽率な言動をとる生徒もいるので、さらに生徒観察や声掛けをし、	1 基礎学力の定着	① 「主体的・対話的で深い学び」について研究し、全ての授業で ICT も活用しながら生徒の活動・体験を盛り込んだ指導の実践に努め、インプット型学習からアウトプット型学習への転換を図る。 ② 個の適性・資質・進路希望に応じた学習指導の充実を図り、「個別最適な学び」を支援する。 ③ 授業と課題等を結び付け、自主的・自律的に学ぶ姿勢を育み、家庭学習時間 0 分の生徒をなくす。 ④ アンケートの授業に関する全項目で満足度 85%以上をめざす。	A	
	2 社会を意識したキャリア教育の推進	① 適時に適切な進路行事を実施し、勤労観・職業観を育むとともに社会性を養う。 ② 丁寧な個別面談を通して、社会との関わり方を考えさせ、将来の進路設計を促す。 ③ 進路決定率 100%を実現し、就職指導に加え進学指導にも力を注ぎ、4 年制大学・短大進学 15 名以上の合格をめざす。 ④ キャリア・パスポートの活用により、人間関係形成・社会形成能力等を育成し、自己実現につなげる。	B	
	3 豊かな人間性の育成	① 家庭との連携を深め、欠席・遅刻・早退を減らし、基本的生活習慣の確立をめざす。 ② 生徒の心情理解を図り、信頼関係を築きながら生徒指導・生徒支援に当たり、特別指導件数を昨年度以下に抑える。 ③ 生徒とのコミュニケーションを大切にし、登校指導や学校行事、委員会活動など学校教育活動全体を通して、「豊かな心」を養い、いじめの早期発見・早期解決に努める。 ④ 部活動加入率 40%超をめざし、各部とも部員を確保し継続的に活動可能な体制づくりを行う。	B	

別紙様式 2 (高)

個に応じたきめ細かい指導・支援を心がけ、基本的生活習慣の確立と規範意識の向上をめざしていく。 学校の活性化のため生徒の自主的活動を促進していく。そのためには、部活動や委員会活動、学校行事への積極的参加を促し、自信をもたせ、生徒個々の人間的成長に繋げる場面を創り出していく。 働き方改革については、教員の意識改革や業務の精選を進めていかなければならない。会議の在り方を見直すとともに、ベテラン教員と若手教員とでOJTを実施する。超過勤務時間の削減や業務の縮減で生まれた心身の余裕を生徒とのコミュニケーションの充実に繋げていく。 授業改善については、改善・改革の必要性が強く認識され、研修・研鑽に励む姿勢がみられる。「主体的・対話的で深い学び」を推進するため、さらに個人・教科・学校全体で研修を重ねていく。	4	学科や地域の特色を生かした教育	① 学科や地域の特色を踏まえ、実社会・実生活との関わりを重視した体験・探究活動を設定する。 ② 地域の行事やボランティアなど生徒が積極的に外部と関わる機会を創り出す。 ③ 検定試験や資格取得、課題研究などへの取り組みを推奨し、生徒が主体的に学ぶ姿勢を引き出す。	A		
	5	信頼される学校づくりの推進	① 潮来市唯一の高校として「地域と共にある学校」を理念とし、地域とのつながりを重視する。 ② 保護者や地域の方との信頼関係構築をめざし、学校公開や地域の行事を大切にする。 ③ HPの更新・閲覧回数を昨年度以上に増やし、学校だより（中学校対象）の発行を月1回行う。	B		
	6	働き方改革の推進	① ベテラン・中堅・若手でチームをつくり、スキルを組織的に継承し、業務の効率化を図る。 ② 月45時間超過の教員がゼロになるよう業務改善・教員の意識改革に取り組む。 ③ 働き方改革で生み出される心身の余裕を生徒とのコミュニケーションの場につなげる。	B		
	7	授業改善	① 教員同士がスキルを高めあうために、相互の研究授業を積極的に実施。教員間のノウハウの共有や、新たな授業手法の発掘を図る。 ② 生徒の授業に対しての満足感や充実度をアンケートで測り、肯定的に評価している生徒の割合85%以上を目標設定とする。 ③ 地域や各学科の特色を活かした授業展開にも力を入れ、生徒が能動的に学べる最適な授業展開に取り組む。	A		
評価項目	具体的目標		具体的方策		評価	次年度（学期）への主な課題
国語科	基礎学力の定着を図る。		授業でICTを活用し、基礎・基本をおさえた学習内容の定着を図る。		B	・必要に応じてICT機器を活用し、対話的な活動の機会を増やし、基礎的な知識と思考力が定着する授業を目指す。
			個の適性・進路希望に応じた課外・課題添削・家庭学習指導について工夫改善をする。		B	
	読書習慣の定着を図る。		教務部図書館担当と連動し、図書館利用の活発化を図る。		B	
	社会に通用する国語力が身に付く指導を行う。		漢字の読み書きや、適切な話し方、聞き方、表現力を養う活動を取り入れた授業を実践する。 各種研修会に参加し、自己研鑽に努めるとともに、教科内で連携・協力し、情報共有を図る。		A C	
地歴公民科	基礎学力の向上を図り社会的事象に対して興味・関心を持たせる。		電子黒板を積極的に活用し、「わかる」授業の充実を図る。		B	・ICT機器を活用し、わかりやすい授業を行い、基礎学力の定着を図る。 ・生徒の歴史・現代社会の諸事象に関する興味関心を引き出す。
			地図や副教材などの資料を通して、社会的事象に興味・関心を持てる授業を実践する。		A	
			各種研修会に参加して情報を収集し、生徒に還元していくことに努める。		B	

別紙様式 2 (高)

数学科	基礎基本の定着を図る。	基本的な計算の問題演習プリントを配布する。定期考査で出題し、定着の度合を測る。	B	B	・ICT の活用や協働的な学習の場を設けるように努め、「わかる授業」の推進に努める。進学課外や補習の機会を増やし、個に応じた指導を丁寧に行っていく。
		適宜、課題を出すことで家庭学習を促す。	B		
		定期考査不振者に対して補講を実施し、学力の底上げをしていく。	B		
	「わかる授業」への改善に努める。	ICT を活用した授業展開について、研修を深める。	B		
		数学科各教員が幅広く生徒の指導に関わっていくように協力しながら進めていく。	B		
		提出物等で生徒の理解を測り、授業に反映していく。	B		
		各種研修会に参加し自己研鑽をするとともに、教科内で情報共有を図る。	C		
	目的に合わせた個別指導の充実を図る。	進学・就職に数学を必要とする生徒に対応した個別指導を随時行う。	A		
		希望者対象の課外授業を実施し、資質・能力をさらに伸ばしていく。	B		
理科	生徒の実態を踏まえた指導を行い、基礎学力の定着を図る。	生徒がつまづくポイントを把握し、復習を十分に行うことで、「分かる授業」を行う。	B	C	・物理や化学で多く見られたが、同クラス内でも実力の差が顕著に現れている。 ・小テストや振り返りを活用し、個のレベルに応じた支援をできるように、ICT 機器の活用を踏まえ授業方法を改めていく。
		ノートやレポート等を提出する機会を設定し、授業に対する取り組みを適切に評価する。	B		
		小テストやアンケート、振り返りを随時実施し、学力の定着状況を正確に確認する。	B		
	自然や科学に対する興味・関心を育む。	実験・演習実験だけでなく ICT を適切に活用し、生徒が自発的に自然科学の現象に関心を持てるような指導を行う。	C		
	実験・観察に主体的に取り組む態度を育てる。	各実験の目的を理解しながら主体的な活動が行えるようなきめ細かい指導を行う。 教科内での授業見学や TT を積極的に導入して充実した授業体制の推進に努める。	C C		
保健体育科	生徒が主体的に学び、活動する態度を育成する。	時事的内容や視聴覚教材 (ICT) を取り入れ、わかりやすい授業を展開する。	A	B	・保健での ICT 機器活用が定着してきた。 ・体育で ICT 機器活用を工夫していきたい。PBL 学習方法を取り入れ展開することができた。
		生徒一人一人の課題設定を明確にし、解決のための行動が取れるよう支援する。	B		
	集団で行動することを通して規範意識や帰属意識を育てる。	体育の授業だけでなく、体育的行事で集団行動を行うことにより、集団の中での自己の役割を理解させ、クラスや学校の一員であることを意識させる。	B		
芸術科	生徒の実態を踏まえた魅力ある授業を通して、芸術を愛好する心情の育成に努める。	生徒の興味・関心にそった幅広い題材や実態に合わせた教材を取り上げることで、基礎的な知識や技能の定着を図る。	B	B	・ICT 機器を活用した授業改善及び、音楽と美術の教科横断的な鑑賞の機会をより設定できるように工夫していきたい。
		芸術を通じ豊かな人間性や社会性を育み、生涯を通して芸術を愛好する心情や生きる力を育成する。	B		
		発表・展示の機会を積極的に設け、音楽・美術の横断的な鑑賞会を行うことで主体的・創造的な態度や表現する喜びを養う。	A		
英語科	生徒が主体的に取り組める課題設定を工夫する。	ペアワークやグループワークなどによる「聞くこと・話すこと [やりとり・発表]」の活動を多く取り入れ、表現する力を育む。	B	B	・ICT 機器活用をより充実させ、基礎学力の定着を図る。 ・協働的な学びの場を設ける。 ・生徒が主体となる言語活動の機会を増やす。 ・教科会や研修等での情報共有を活発に行う。
	生徒の実態をふまえ、基礎基本の充実に努める。	基礎基本となる英単語の小テストを定期的実施し、語彙力の定着を図る。	B		

別紙様式 2 (高)

商業科	基礎学力の向上に努めるとともに資格取得を奨励する。	課外授業等を実施するとともに、会計・情報処理分野において TT で授業を行うことにより、学力向上を図る。	B	B	・生徒の個に応じた指導を行い、資格取得につなげる。 ・生徒が自力で問題を解く個の力の定着。 ・地域と大学生のサポートを得つつ、生徒の主体性強化と提案の分析に直結させる工夫を行う。
	潮来市・上級学校・企業との高大連携事業を通して、郷土愛を深める。	生徒の柔軟なアイディアを活かしながら、上級学校の学生の科学的な分析を掛け合わせ、協力して魅力と説得力のある潮来市まちづくりの提案を行うことで、郷土愛を深める。	A		
情報科	情報モラルやセキュリティの知識を身に付ける。	ネットワークセキュリティや情報モラルについての知識を身に付け、デジタル・シティズンシップの醸成を図る。	A	B	・情報活用能力の育成が不十分である。 ・興味ある実習課題の充実と工夫を行う。
	情報活用能力の定着に努める。	データ処理やプログラミングをはじめ、デジタルを活用した情報活用能力の育成を図る。	B		
家庭科	基本的知識・技術の定着を図る。	ICT を効果的に活用し、基本的知識と技術の定着を図る。	C	C	・ICT 機器活用や研修による授業改善により、基礎知識の定着を図り、生徒の能力や個性、習熟度に応じた個別指導をこまめに行う。
		科内外で研修を行い、授業改善に取り組む。	C		
	選択コースの授業充実と資格取得に努める。	少人数指導によるきめ細かな指導を行い、各種検定の合格率 100%を目指す。	C		
	家庭クラブの活性化に努める。	課題研究等の授業を通して、主体的に探究活動を行い、成果を発表する。	B		
		校内外の様々な活動に参加し、他校との交流を深め、活動を活性化させる。	B		
教務部	生徒の学習意欲及び基礎学力向上を図る。	ホームプロジェクトを実施し、生徒自ら課題を発見し、解決する経験を積む。	B	B	・生徒の学習意欲向上を図るため、学年・教科との連携の強化、体制・教具の整備。 ・ICT の活用と協働的な学習の実現に向けた授業改善、継続的な研修の実施。 ・継続的な蔵書の整理および生徒が利用しやすい図書館の環境整備。 ・適切かつ充実した広報活動の実施。
		年 2 回（6 月と 11 月）の校内での授業公開を積極的に推進するとともに、研修会を実施し教員の指導力向上に努める。	B		
		ICT 機器を有効に活用し、生徒の主体的・対話的で深い学びの実践に努める。	B		
	学習指導体制の確立を図る。	基礎学力を向上させ進路実現を果たすために、適切に課題等を与え家庭学習を勧める。	B		
		成績不振者に対しては、学年・教科と連携しながら、長期休業中や考査前に補習を行う。	A		
		授業を大切にする意識を高める。学年と連携し、欠課時数等で指導を受ける生徒を少なくする。	C		
	図書館利用者数の増加を図り、活性化に努める。	国語科と協力し、新入生への図書オリエンテーションを実施し、授業での図書館利用の支援を行う。	A		
		静かで明るい読書環境を整備したり、生徒の興味関心をひくテーマによる展示を行ったりすることで、利用者の増加をはかる。	B		
		購入図書希望アンケートを実施し、図書館の充実を図る。	B		
	広報活動を充実させ、本校への志願者数を増やす。	学校説明会や学校公開を充実させ、中学生や保護者、中学校の先生方に本校の魅力を伝える。	A		
		学校新聞を学期に 1 回以上発行、地域や関係中学校に配布し、学校の魅力を伝える。	C		
		ホームページを効果的に活用、積極的な情報発信を行う。	B		

別紙様式 2 (高)

進路指導部	進路意識・職業観・勤労観の向上を図る。	適時に適切な進路行事を実施し、職業観・勤労観を向上させる（進路ガイダンス、進路講話、進路別バス見学会、職業人講話、進路希望調査、進路セミナー）。	A	B	・進路ガイダンスや個別面談等、低学年からの計画的な進路指導や情報提供の在り方について検討し、生徒が主体的に進路を考える機会を確保する。 ・進路指導部内および学年との連携を深め、生徒の多様な進路希望に対応できる体制づくりに取り組む。
	キャリア教育を実践し職業観・勤労観を向上させ地域の人材を育成する。	インターンシップ、看護体験、職場見学、企業訪問、オープンキャンパス、自衛隊駐屯地見学、地域ボランティア活動に参加し、キャリア・パスポートを活用して、職業観・勤労観の向上を図る。	B		
	基礎学力の向上と自己理解をめざす。	課外授業、公開模擬試験、適性検査、一般常識テスト、看護模試、秘書検定などを実施し、就職指導に加え進路指導にも力を注ぎ、進路実現能力の向上を図る。	B		
		丁寧な個別面談を通して、社会とのかかわり方を意識させ、進路目標を明確にする。	B		
	学年・保護者との連携を図る。	就職進学説明会、各学年進路指導部員間の連携、保護者面談時の進路相談を実施する。	B		
		進路行事を学校 Web サイトへ掲載する。PTA 会報へ進路状況を掲載する。	C		
生徒支援部	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	定期的に生徒指導集会を実施し、頭髪や服装の正常化等規範意識の向上を図る。	C	C	・いじめ未然防止、問題行動の未然防止のため、日々の生徒観察を十分にを行い、生徒の変化に早期に対応する。 ・交通安全に対する意識を高めさせ、ルール、マナーの遵守や事故防止を図る。 ・生徒に関する情報の共有を全職員で図り、生徒の指導・支援に役立てる。
		全教員が普段からの「声かけ」を行い、生徒との信頼関係を築く。	B		
	生命・身体の安全確保を基本とした生活支援を実践する。	登下校時の交通指導を実施し、交通事故防止を図る。	C		
		携帯・スマホ利用のルールとマナー遵守を促し、トラブルの未然防止に努める。	C		
		月毎に被害調査を実施し、生徒間トラブルの早期発見、対応を図る。	B		
	外部機関との連携を強化する。	関係機関と協力し、地域の祭礼等の巡視を行い問題行動の未然防止に努める。	C		
		地域からの苦情や連絡に真摯に対応し、速やかに行動する。	B		
		学警連や県東地区の生徒支援部と情報を共有して、生徒支援を実践する。	B		
特別活動部	部活動の活性化を図る。	定期的な顧問会議の開催と各部顧問間での情報共有・共通理解を図る。	A	B	・特活部の人員構成に関わらず、学校行事を円滑に運営するための工夫をする。 ・自治的な能力の育成過程として生徒会役員の活動の機会を増やす。
		生徒会活動との連携を図り、部活動を活性化させるための活動を促進する。	B		
	ボランティア活動を奨励する。	多くの生徒がボランティア活動に参加できるように、各種ボランティアの案内・掲示と呼びかけを実施する。	A		
	生徒会役員の自発的活動を促進する。	生徒会による校外・校内での積極的な活動を促す。また各種委員会もできる限り活動をしてもらえるように環境を整備する。	B		
	キャリア・パスポートを活用する。	生徒が各々、特別活動の履歴を整理し、自己を省みることによって人間関係形成・社会形成能力等を育成し、自己実現につなげる。	C		
渉外部	保護者と教職員が連携し、信頼される学校づくりに努める。	PTA 役員会等を通して連携を密にし、教育活動への理解と協力を得る。	A	B	・PTA 総会や祭礼巡視などの行事を見直して、教員の負担軽減に寄与できた。 ・高 P 連関係事業や地元地域の行事などにも積極的に参加することができた。 ・次年度もさらに行事等の見直しを進めていきたい。
		保護者面談以外にも、学校公開や P T A 総会など、保護者がより参加しやすい計画を立てる。	A		
	地域や関係機関との連携を図る。	PTA 広報誌や学校 Web サイトを活用して、学校の教育活動の様子を地域に積極的に公開する。	B		
		地域の関係機関と連携してマナーアップキャンペーンを実施する。	B		

別紙様式 2 (高)

保健安全部	生徒の健康管理や感染予防の意識を高める。	「保健だより」を毎月発行する。	A	B	・感染症対策については新たな情報や指針に基づいて柔軟に対応していきたい。 ・教職員対象の救急救命講習を実施した。次年度以降も継続的に実施していきたい。 ・調査データを活用して生徒の情報の共有を図り、生徒支援に活用していきたい。 ・関係機関と連携して適切な防災訓練を実施すると共に生徒の防災に対する意識向上を図りたい。
		ポスターを掲示したり資料を配付したりすることで、思春期特有の疾病や季節毎の感染症について理解させ、自身の健康について考える機会を増やす。	C		
		健康診断の受診率 100%を目指す。	B		
	防災・安全意識の向上と学習環境の整備を図る。	関係機関と連携した防災訓練を計画・実施する。	C		
		救急救命講習を計画し、緊急時に対応できる体制を整える。	C		
		学校内の設備点検や改善を行い安全な学習環境を整える。	B		
	教育相談を中心とした支援体制の充実を図る。	教育相談で得られた生徒情報を共有し、生徒のニーズに合わせた支援をする。	B		
		心理テストを実施、相談室だよりを発行して、生徒支援に活用する。	C		
		校内の支援体制を整備し、保護者・中学校・外部関係機関との連携を図る。	C		
		スクールカウンセラーと連携を強化し、生徒の心理的な支援を充実させる。	A		
第一学年	基礎・基本学力の定着を図り、主体的に学習活動を行う態度を育てる。	日々の授業を大切に、予習・復習を心掛け、主体的に学習に取り組む態度を養う。	B	B	・遅刻や途中退出をする生徒が多いため基本的生活習慣の確立が必要。 ・時間の管理や提出物の管理、引き続き取り組むべき課題である。 ・校則を理解していない生徒が多いので服装・頭髪指導の一層の充実を図りたい。 ・部活の新設を申し出たり、加入したいと申し出る生徒もいたりしたが、部活によっては対応できる教員がいななど、生徒の意欲はあるものの、現実的には難しい状況である。 ・進路意識が低いので意識の向上を図りたい。 ・普通科の検定・資格取得については、英語科・国語科と協力して日程等のアナウンスをするなどの工夫が必要。
		課外授業や各種テストを奨励・実施し、基礎・基本学力の定着・向上を図る。	B		
	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	「あいさつ運動」を通して、自分から進んであいさつができる習慣を身に付ける。	A		
		時間厳守・生活リズムの確立等を柱に高校生らしい基本的生活習慣を確立する。	B		
	積極的な資格取得・部活動参加を促す。	各種資格・検定を奨励・実施し、合格に向けての補講や課外も随時行う。	C		
		特別活動部・各部顧問とも協力し、部活動への積極的加入を推進する。	C		
	豊かな人間性と社会性を身に付けさせる。	学校行事やホームルーム活動に積極的に参加させ、コミュニケーション能力を高め、豊かな人間性を育む。	B		
		「総合的な探究の時間」等を通して郷土愛を深め、社会性・協調性を育む。	B		
	保護者・地域との連絡を密に取り、学校との信頼関係を構築する。	保護者との連絡・連携をスピーディーかつ密に行うことで、諸活動・問題の早期対応・解決に対応する。	B		
		学校諸活動の情報を保護者・地域に発信し、また、地域のボランティア活動に参加するなどして、本校の教育活動への理解・協力を求める。	C		
第二学年	基本的生活習慣を確立し規範意識の向上を図る。	頭髪・服装の指導を継続的に行うとともに、挨拶を奨励し、社会的規範意識の向上を図る。	D	B	学習に臨む姿勢も含め、基本的生活習慣が身に着いてきた生徒も多いが、遅刻や欠席が減らない生徒、問題行動が改善されない生徒もいる。学年としての組織的な対応を強化しながら、学習や集団行動、社会的意識も含め、進路達成が叶うよう、高校生活最後の年の指導を充実させていきたい。
		遅刻・欠席を減らし、計画的に行動する姿勢を身に付けさせる。	C		
	基礎学力の定着と進路意識の向上を図る。	落ち着いた主体的に授業に取り組む姿勢を養うとともに、家庭学習を奨励する。	C		
		定期考査や授業の課題に計画的に取り組む姿勢を身に着けさせる。	B		
		進路行事や課外授業、実力テストを実施し、自分の将来を考える機会を設ける。	C		
	社会性・協調性および個々の能力の伸長を目指す。	ホームルーム活動や学校行事に積極的に参加させ、社会性と協調性の向上を図る。	C		
		修学旅行や文化祭・球技大会などの集団活動を通して、個々の能力の伸長を目指す。	B		
	保護者との連携を密にし、信頼関係を構築する。	生徒に関わる、学校生活において発生する諸問題について、早期かつ迅速に学年全体で対応する。	B		
		保護者との連絡・連携を密にし、本校の教育活動への理解と協力を求めるとともに、必要な場面では専門機関に迅速な協力を依頼する。	B		

別紙様式 2 (高)

第三学年	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	頭髪・服装の指導を継続的にを行い、規範意識の向上と社会人としてのマナーを身につけさせる。	B	B	多様性を尊重する社会になり、従来のような指導が通じない場面も増えてきていると感じるものの、協調性や他者との合意形成を大切にする指導は今後も継続していくべきと感じる。進路、特に進学については、未来に生きる力をつけさせるために上級学校も変化していることを我々も研究しつつ、進路指導に生かしていかなければならない。
		あいさつなどコミュニケーションを活性化し、互いを認め合い、協力しあえる関係作りを促す。	A		
		登校時間・授業時間を厳守させるとともに、時間を大切にする・うまく使うことの大切さを伝え、遅刻指導を強化する。	C		
	基礎学力の定着と進路意識の向上を図る。	授業を大切にし、教え合う活動や発表の場を準備し、生徒が主体的に取り組む姿勢を養う。	B		
		自分で考え、その考えを共有しあう姿勢やプレゼンテーション力のさらなる強化に努める。	A		
		各種資格・検定の案内を随時行い、積極的に取得させる。	A		
		課外授業や一般常識テストを実施して、基礎学力のさらなる定着を図る。	C		
	進路指導の充実、全生徒の進路希望を実現させる。	進路指導部と連携し、進路説明会、模擬面接、志望理由書や履歴書指導等を数多く実施する。	B		
		オープンキャンパス、体験学習、会社見学に積極的に参加させる。	A		
		進路相談の個別指導を適宜実施し、各生徒の進路実現を促す。必要に応じて保護者を交えて行う。	C		
	保護者との連携を図り信頼関係を構築する。	保護者との連絡・連携を密にし、問題に対しては早期に学年でチームとして対応する。	B		
		確実な情報伝達のための工夫をするとともに、保護者の要望や意見に対しては丁寧に対応し、学校教育への協力を求める。また、必要に応じて家庭訪問を行う。	B		

※ 評価規準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない